

自然ネット参加団体等の取組 (50音順)

戦略基本目標 1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

NPO法人環境ネットワーク

小倉北区

実施内容

活動名称 カプトガニ産卵観察ツアーの運営

取組内容

目的・趣旨 市民に対して、生物多様性の重要性と啓発を目的とし、日本有数のカプトガニの産卵地である曾根干潟において、カプトガニの産卵観察および専門家による解説。また曾根干潟の野鳥を観察し北九州市の自然環境を体感して頂くツアーを開催。

活動内容 「日本カプトガニを守る会福岡支部」メンバーの協力を得て、現地で、実際の産卵観察とカプトガニの生態の説明を2班に分けて交互に体験をして頂きました。その後砂浜まで移動をし、野鳥観察と水辺の生き物の観察をしました。最後に砂浜周辺のゴミも拾って持ち帰りました。

成果 身近な場所にカプトガニが生息していることに大きな驚きと共感を得られたようで、子供達にも記憶に残る実体験が出来たと思います。また、環境保全の大切さを感じて頂けたと理解しています。



現地向かう際に「カプトガニ自慢館」に立ち寄りました。水槽のカプトガニに触れる体験しました。



観察終了後、皆さんで海岸まで清掃しました。



大量のゴミを回収



2班に分けて、テント内でカプトガニの生態の説明を受けます。



1班は先に産卵観察へ向かいます。



最後に「カプトガニの抜け殻」をプレゼントして頂きました。

【守る会からのプレゼント】

今後の展開

専門家による説明は「知識の泉」です。海辺のツアーをはじめ山の散策、自然を体験することを通して、野生生物の減少や広範囲の環境に及ぼす負担を知ってもらい、市民各自が無理のない活動に取り組まれることを願っています。

北九州グリーンヘルパーの会

門司区

実施内容

活動名称 里山保全事業(小倉南区合馬地区:竹林整備、植樹他) 農事体験事業(小倉南区徳吉地区:休耕地の有効活用)

取組内容

目的・趣旨 合馬地区の約300haの竹林の内、100haは管理されて筍が生産されている。残る200haは放置状態で荒廃が進んでいる。本会は“未来に美しい豊かな自然を残し育てる”を目的として、放置竹林の整備と維持管理及び植生回復に努める。又 農事体験を通じて里地環境の保全に努める。

活動内容 里山・里地保全事業:
竹林整備(竹林間伐・筍掘り)
竹林全伐地の植生回復
休耕地の花畑造成・野菜栽培
そのほか各植樹会参加

成果 2019. 3月より新しい放置竹林の竹林整備を始めた。3年間の活動で予定地区の半分ほどの整備ができ、見違える様な竹林に蘇っている。



ロープを掛けて伐竹



休耕地をコスモス畑に

課題

会員の高齢化と会員の減少が進んでいる。会の趣旨を理解し、自然環境保全に興味がある方の入会を、年齢性別を問わず、随時募集中です。里山里地の自然環境を整え、将来に豊かな自然を残すことを夢見るあなた、ぜひご参加下さい。活動で汗を流し、自然もあなたも健康体になり、自然の恵みにあずかる喜びが待っています。

今後の展開

活動の継続を図り、整備の範囲を広げ、若い人にも合馬の地(自然)を親しんでもらいたい。

北九州植物友の会

小倉北区

実施内容

活動名称 自然観察

取組内容

目的・趣旨 植物を通して自然を正しく理解し、快適な自然環境の保全、地域文化の向上に寄与することを目的とする。この目的を達成するために例会、同定会、研究会等の行事を行う。

活動内容 コロナ渦のなか、計画された月例会の観察場所は、予定通り11回の例会を開催した。会員数32名。例会参加者174名。友の会誌「北九州植物友の会会報」 32頁A3版 オールカラー 年1回発行。

成果 野外観察会11回うち県外4回、室内学習会・同定会1回の活動報告を北九州植物友の会会報第46号に掲載した。



課題

さらなる活動の活性化のためには、会員の平均年齢上昇に歯止めをかけるために、若い世代の会員を増やしていく必要がある。

今後の展開

長年の間、開催してきた月1回の野外観察会・室内研究会・同定会ならびに年1回の友の会会報の発行を継続していくことを第一義として活動していきたい。

NPO法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会

若松区

実施内容

活動名称 平成竹取伝説

取組内容

目的趣旨

合馬の筍がブランド化する北九州市であるが、放置により荒廃する竹林・里山も少なくない。そこで、北九州学術研究都市およびその周辺の竹林・里山を市民・NPO・企業が協働し、生物多様性や景観の保全を図るものである。

活動内容

2004年1月から毎月1回(原則第二土曜日9:30~12:00)、市民・NPO・企業が協働し、竹林・里山の保全活動を実施

成果

北九州市学術研究都市周辺における竹林の間伐作業を行い、景観保全及び生態系保全に努めた。水路沿いに浸食している竹の間伐作業及び草刈りを行うことによって虫が生息できる環境を整備できたことが成果としてあげられる。また活動場所や広報の方法などを工夫し、活動継続に向けて取組を行った。

課題

今まで主に人の目の届かない森林竹林で活動してきたが、地域からも良く目につく里山で活動することの重要性を感じ、これからは地域に根ざした活動や人材育成にも努める。



今後の展開

活動フィールドである北九州学術研究都市の周辺にはいくつか里山があるが、周辺住民にも目につく市民公園内の里山を保全モデルとして長期に渡って活動を展開していく。目的として、地域住民の活動参加促進や将来の里山保全のモデルの構築を目指す。

NPO法人 里山を考える会

八幡東区

実施内容

活動名称 北九州里山トラスト会議

取組内容

目的趣旨

里山の自然でのさまざまな体験や保全活動等を通じて、人間と自然の共生について理解を深めていく。

活動内容

里山トラスト会議では、里山の自然維持・管理活動を中心とした活動を年20回程度行っている。具体的な活動としては、侵入竹の除去や下草刈り、遊歩道の整備、自然観察会などである。また、里山トラスト会議最大のイベントとして毎年11月に「里山祭」を開催している。森の中で料理、クラフト体験、里山さんぽを実施するなど、普段あまり自然に接する機会の少ない方にも興味を持ってもらえるような活動を行っている。

成果

今年度は、17回の活動を行った。新たにツリークライミングを導入した。活動では森の学校の子も達が利用できるよう「森のウッドデッキ」政策を行った。ボランティアとして大学生や中高生の方々が活動に参加してもらうことができ、ユース世代や大学生、NPOとの協働ができたと考える。



課題

里山トラスト会議での課題は、コロナ禍の影響もあり活動メンバーの偏りは感じている。若者世代は車の所有や運転免許を持たない人が増えてきた感覚を持つ。主に山での活動が多いため公共交通機関が少なく不便な場所が多い特徴があるため、それらを支え合うため参加者同士の関係づくりも継続的に進めたい。

今後の展開

これまでの活動実績をベースに今後も里山での取組を継続していく。今後も活動を通じて「自然との共生」について理解を深め行動できるきっかけづくりを進めていきたい。

日本熊森協会 福岡県支部

八幡西区

実施内容

活動名称 1) 皿倉山原生林観察 2) どんぐり拾い

取組内容

目的趣旨

1) 保水力の高い豊かな森を知る
2) 熊森協会本部で飼育されているクマに餌のどんぐりを送る

活動内容

1) 実際の森の現状を観察
2) 自然林観察しながら落ちていたどんぐりを拾った

成果

1) 広葉樹の森は鳥はさえずり、空気も清々しく山歩き効用を実感できた。
2) どんぐりが不作の今年、20 kgのどんぐりが拾え、箱2つ分を餌として送れました。

課題

1) 森林環境譲与税が放置人工林の再生へ活用されることを願う。

今後の展開

1) 山の現状を多くの人々に知って戴くための勉強会「クマカフェ」を開催し放置されたままの杉・ヒノキの山を間伐し、光を取り込むことにより広葉樹の森へ再生する活動につなげる。
2) 今回初めて行いましたが、継続して行いたい。



深町どんぐりのもり保育所 若松区

実施内容

活動名称 さつまいもの苗植え・さつまいも掘りをする

取組内容

目的・趣旨

自分たちで野菜を育てながら自然に親しむ。

活動内容

- ・さつまいもの苗を植え大切に育てる。
- ・大切に育てたさつまいもを収穫する。
- ・給食で調理したさつまいもを味わう。

成果

自分たちで野菜を育てることや収穫を楽しみ、それを調理したり食べたりすることにより喜びが増した。

今後の展開

季節に応じて、様々な野菜や植物の栽培や収穫を経験できる場を多くしていく。



NPO法人帆柱自然公園愛護会 八幡東区

実施内容

活動名称 植物観察会&キノコ観察会

取組内容

目的・趣旨

皿倉山系の四季折々の樹木や野草に親しみ、豊かな自然環境とそれを支える植物達の生態を探る。

活動内容

- ・年間8回、開催月の第1日曜日
- ・四季折々の植物観察で自然とふれあう

成果

- ・天候等の影響なく、年間を通して開催できた。
- ・1年間継続された参加者は回を重ねるたびに植物観察のベテランへとなられていった。

課題

新しい植物ウォッチングコースを準備する。



今後の展開

地道な活動を重ねる中で、「自然を愛する心」を広めてゆきたい。

紫川河川塾 小倉南区

実施内容

活動名称 おやし 親父とボクの“うなぎ放流会”in中谷

取組内容

目的・趣旨

- ・地域の大人や子どもに参加していただき、地元の山や川などの自然に触れることにより、自然保護の意識向上を図る。
- ・川と触れ合うことにより、川遊びの楽しさを知っていただくとともに、川遊びの危険も理解してもらう。
- ・川の楽校、山の楽校を開催して、山・川・水の大切さを理解する。

活動内容

紫川上流の旧道原小学校校庭で、うなぎの稚魚約100匹を放流。昼食には中谷地区まちづくり協議会女性部が作った、豚汁・おにぎりを食べた。

成果

中谷地区(すがお小学校校区)の児童、すがお放課後児童クラブ、児童福祉施設双葉学園の生徒、役員を含め約100名の参加となった。放流により、うなぎは増えているようだ。地域の人たちも時折うなぎ取りに行っているようである。



課題

全体としては多くの人に参加していただいたが、地元の児童や大人の方々の参加が少ない。各方面にもっとPRをして、地域をあげての活動にしたい。

今後の展開

うなぎの放流だけではなく、別の行事も行うようにしたい。以前、桜の植樹の行事を行ったが、今ではうなぎの放流会が定着している。2022年はコロナの影響で行事を中止していたが、2023年3月26日に同じ内容で行いました。2024年は行事を行う予定。

皿倉登山鉄道株式会社(皿倉山) 八幡東区



実施内容

活動名称 皿倉山天体観測会

取組内容

目的・趣旨

日本で最初に公害防止に立ち上がった北九州市の星空のすばらしさを多くの方に紹介するため。

活動内容

四季折々に観測できる惑星や星の説明をしながら天体観測会を実施。

成果

街中にある山の山頂で見る星空と夜景のすばらしさを伝えることができた。



合同会社Discover Walks 若松区

実施内容

活動名称 プライベートガイドツアー
「響灘、海ゴミは語る ～“現場”であなたは何を惟う～」

取組内容

目的・趣旨

名称に変遷はありますが、同様のプログラムを17年間、オーダーメイドで続けています。報道や伝聞でこの問題や様相を知識として頭では理解していても、実際に「現場(フィールド)」で自身の五感で体感したことがある方々はまだ圧倒的少数です。日々の暮らしの中で、小さなことから行動を変えていく、行動を起していくためには、現場での実体験が不可欠だからです。また、一般的な日時限定のクリーンアップイベントでは多くの賛同・参加を見受けませんが、「今日は良いことしたね。」という満足で終わってしまいがちです。それらのモノの背景や自然・私たちの日常との関連はどうなっているのか、拾い集めたモノの後処理はどうなっているのか…等々、イベントではなかなか触れられない“背景にあるコト”を実体験とインタープリテーションで“識り”そして各々自身で“惟う”きっかけとして、このプログラムを提案し続けています。

活動内容

戸畑から若戸渡船で若松へ渡り、響灘エリアへ。産業と暮らしの相関やギャップも感じていただきます。その後、自然海浜にて、漂着ゴミの様々なトピックスを通じて、マイクロ・マクロの課題を体感いただきます。また、環境省委嘱の自然公園指導員として、自然海浜の定点モニタリングと出来る限りの漂着物回収を毎月数回の頻度で継続しています。



成果

「参加者数や回数が成果」とは一切考えておりません。これまでの17年間のプログラム提案・提供を通じて、参加された方々が、表面的な理解ではなく本質的な理解を深め、何らかのアクションや行動変容に繋がっていることを願って続けています。また、参加費の約半分はこの問題に取り組むNGOや市民団体に寄付しています。そのサイクルを回すために、あえて「それなりの対価」の有料プログラム(お金を取るのか!と思われるかもしれませんが。)にしております。

今後の展開

地味に地道に継続いたします。弊社はイノベーターでもゲームチェンジャーでもありませんので、社会的な変化は起こせませんが、参加された方の心に響き、価値観や行動の小さな変化のきっかけとなるような活動でありたい、と願っています。プログラムの運行においては、環境や社会に対してより一層 responsible/sustainable であるように、2022年6月以降、プログラム中の移動部分も自転車や公共交通(路線バス、筑豊線のBEC)に変更し、プログラムのライフサイクル全体で一層高いレベルでの low emission & low carbon化をはかったツアー「若松北海岸Cycle&Walk」も始めています。

戦略基本目標 2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

北九州市立市丸小学校 小倉南区

実施内容

活動名称 地域の人・もの・こととのかかわりを通して主体的に学ぶ環境教育

取組内容

目的・趣旨

市丸(東谷)地区の自然豊かな環境を生かした体験活動を全学年を通して本校独自の教育課程を編成し、ふるさと(市丸)への愛着と誇り(シンビックプライド)をもち、主体的に取り組む児童の育成を目的としている。

活動内容

地域環境を「人・もの・こと」の視点でとらえて開発した地域教材の検証・見直しを行い、児童が主体的に取り組む学習展開を工夫して以下の実践を行った。

- 1年生→「やさいをそだてよう」
- 2年生→「もっと なかよし 市丸たんけん」
- 3年生→「小倉南区の野菜調べ」
- 4年生→「平尾台探検」
- 5年生→「チャレンジ!小倉織」
- 6年生→「地域の宝、ガシヤモクを守ろう」



4年 平尾台探検



6年 お糸池水質調査



全校 米作り(田植え)

5年 小倉織体験

成果

地域の人・もの・ことに触れることで、課題を自らのものとし、生き生きと活動する児童の姿を見ることができた。また、新たな地域教材を発掘し、児童に体験活動を通して、学習展開を工夫することで、主体的に学習活動に取り組む児童の姿が見られた。

課題

今後も、よりよい環境の創造や保全に主体的に取り組む態度や能力の育成を図ること。

今後の展開

来年度もこれらの教材を児童の実態をもとに見直し、教育課程に位置付けると共に、故郷「市丸」のよさを語る事ができる児童を育てていきたい。

北九州インタープリテーション研究会 小倉南区

実施内容

活動名称 北九州の身近な自然を伝えるインタープリテーション

取組内容

目的・趣旨

布絵シアターで、コロナ禍で自然との触れ合いが少なかった子どもたちの活動を支援

活動内容

SDGs 推進のための SDGs 図書館大作戦や SDGs アート大作戦といった活動を推進しています。またジオ&バイオ研究会のメンバーとしてジオかるたやすごろくの制作なども行いました。



公益財団法人 北九州活性化協議会もったいない総研 小倉北区

実施内容

活動名称 リサイクルトイレットペーパー「北九州紙えこっパー」による「もったいない」を未来に引き継ぐ事業

取組内容

目的・趣旨

牛乳パック等の古紙リサイクルによる再生トイレットペーパー「北九州紙えこっパー（以下、「えこっパー）」の開発、製造、販売・普及を通じて森林資源の保全、都市ごみの減量、製造エネルギーの節減を通じて社会に貢献し、SDGs達成に向けた地域住民の価値観の形成を通じて持続可能な市民参加型の地域循環型社会を目指します。

活動内容

- ①「えこっパー」の普及促進活動（PR活動）
北九州市の各施設、北九州市内の百貨店、空港、ホテル等の大型施設および地元有力企業、金融機関等へ設置いただき、幅広く普及促進活動（PR活動）を実施しました。
- ②環境教育への貢献
「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、牛乳パックリサイクルを活用した小学校での出前授業を実施しました。



成果

「えこっパー」販売数(1パック：6ロール)
令和5年度：135,616パック(令和6年1月末現在)
※販売開始からの累計販売数：4,135,960パック
(平成13年4月～令和6年1月)

NPO法人 北九州国際自然大学校 小倉南区

実施内容

活動名称 環境戦士 アースマン

取組内容

目的・趣旨

次の世代の子どもたちに解り易く楽しく、環境を学んでいただきたい。

活動内容

環境戦士アースマンというローカルヒーローと、地球を汚して、自分たちの住処にすることをたくらんでいる悪の軍団デスゾールの首領キドラ将軍と怪人たちのオリジナルキャラクターショーを地域や幼稚園・保育園で、行なっています。
絵本の販売やアースマンのテーマ曲のCDの販売も行なっています。

成果

北九州青年会議所や小倉南区社会福祉協議会プチボなどの団体とのコラボレーションや地域からの要請に答えています。
「愛・地球博」といった全国規模のイベントにも出演したり、福岡の海の中道でのイベントは、毎年の恒例となっています。



今後の展開

現在も大学生たちとコラボレーションしていますが、更に輪を広げていきたいと思っています。

北九州ほたるの会

小倉北区

実施内容

活動名称 2022年6月8日～12日 山田ほたる祭り

取組内容

目的・趣旨

北九州ほたるの会は北九州の自然環境を守り、ホタルなど身近な生き物の生息を図ることを目的として平成7年9月にホタルに興味を持つ市民によって結成された。年1回の総会、ホタル観察会や研修会の開催、ホタル飛翔調査、情報交換誌の発行などの活動を行っている。全国ホタル研究団体会員でもある。

活動内容

北九州ほたるの会アドバイザー3人、山田緑地管理事務所2人、市ほたる館1人のメンバーで、川周辺の環境について視察を実施しました。現状把握、現状分析、対策案を話し合いました。

成果

山田緑地(とんぼの池)から流れた水が小熊野川の源流です。自然たっぷりの森林に囲まれた仮称・小熊野川源流には、ゲンジボタルの飛翔が見られます。川の両側の樹木の枝を景観を損なわないように配慮してカット、川の中に太陽光線の照射を多くして、カワニナの増殖に役立つことに成功。
(森のゲート前～野草広場)6月16日(355匹)飛翔。
(芝生広場)6月9日(297匹)飛翔。20数年前から飛翔を観察してきましたが、最高の飛翔数です。



今後の展開

北九州ほたるの会、山田緑地管理事務所、市ほたる館、市役所水環境課ほたる係の協力によって、ほたるの定着を目標に安定した飛翔が継続できるように活動していきたい。

福岡県立東筑高等学校生物部

八幡西区

実施内容

活動名称 動物の研究

取組内容

目的・趣旨

生物や自然環境を理解することを目的に、身近な生物の形態や行動のしくみを研究している。

活動内容

令和5年度は、ミミズ・ミルワームについて研究した。良い土づくりの味方であるミミズ、飼育動物の生餌としてよく知られるミルワーム。身近な生き物であるがゆえにあまり注目されていない生物を対象に、環境が動物の行動に与える影響や学習能力について、実験により明らかにしようと試みた。また、市民参加型の調査(植生調査や土壌調査)に参加したり、地域のイベントに参加して科学教室で小学生と交流したりした。

成果

読売新聞社主催第67回日本科学賞福岡県審査に2本のレポートを出し、県審査最優秀賞、優秀賞を得た。



今後の展開

動物の行動と自然環境の関わりについて研究をより深めていきたい。

森の育ち場

小倉南区

実施内容

活動名称 森の育ち場 未就園児の部 みちくさ

取組内容

目的・趣旨

乳幼児期は人間の土台を築く大事な時期である。その時期に親子で自然の中で集う。自然観察や自然体験活動を中心に、子どもそれぞれの興味関心を大切に、虫探しや植物の観察などをゆっくりと行う時間を保証する。これらの活動を通して子ども達の感性を伸ばし、自然に興味を持ち、自然を大切に思う気持ちを醸成し、将来的に自然環境を保全する人材を育成することを目的とする。

活動内容

乳幼児及びその保護者向け自然観察会を月に3回程度行う。乳幼児対象のため、生き物の名前など知識の方ではなく、自然を五感でフルに使って「感じる」ことに重きを置く。子どもそれぞれの興味関心を大切に、虫探しや植物の観察などをそれぞれのペースで行う時間を保証する。「どこまで行く」といった目的地ではなく、文字通り「みちくさ」を自然の中で楽しみ、季節の変化、自然の面白さを感じ学びを深める時間とする。



成果

新型コロナウイルスの影響により引きこもり、他人と接触が制限されている影響は未就園児を抱える家庭にも顕著であり孤立化が進んでいる。このような状況下で自然の中で人と接する機会を設けることで、自然が持つ癒しなどの効果をよりはっきりと感じることができた。

今後の展開

今後も継続して乳幼児とその保護者が気軽の自然と親しむ機会を提供する。